

## MDV診療データ調査リリース vol.4 「分子標的薬に関する処方実態調査」

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役:岩崎 博之 以下、MDV)は、2013年12月より、「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」をはじめとする合計6テーマの調査結果を発表しております。第4回となる今回は、分子標的薬に関する処方実態についての調査結果をお知らせいたします。

2000年に入ってから盛んに開発が行われてきた分子標的薬ですが、近年は、他化学療法剤を凌ぐまでの市場へ成長するまでとなりました。日本人に多い大腸がんの領域においても、アバスチンをはじめとする分子標的薬の存在が大きくなっています。そこで今回は、大腸がん領域を中心にした分子標的薬に関する処方実態を見てみます。

### 【 サマリ 】

分子標的薬4剤の合計処方患者数は、60～69歳において男性が女性の約1.8倍に

処方患者数はアバスチンの1人勝ち、ただし伸び率は頭打ちの傾向

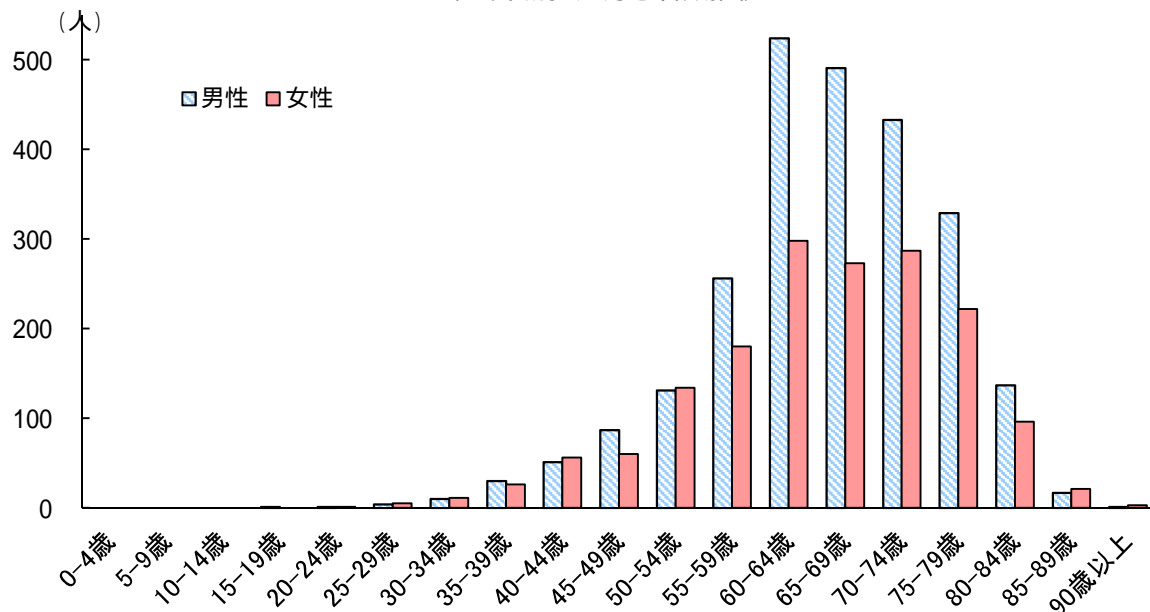
アバスチンにおける乳房の悪性新生物の処方患者数は2年間で2倍に

### 【 分子標的薬4剤の合計処方患者数は、60～69歳において男性が女性の約1.8倍に 】

まず、アバスチン・ベクティピックス・アービタックス・スチバーガの2012年1月～2013年12月における合計処方患者数推移を性年代別にみてみます。

54歳までは男女間での処方患者数の大きな差は見られませんが、60～64歳は男性524人・女性298人、65～69歳は男性491人・女性273人と、この年代における男性の処方患者数は女性の1.7～1.8倍となっています。また、大腸がんの病名ありで絞ったデータでもほぼ同じトレンドが見られました。一般的に大腸がんの罹患リスクは50歳代から増加し始め、女性よりも男性の罹患率が高いと言われていますが、今回の調査においてもその傾向が出た結果となりました。

【 性年代別 処方患者数推移 】

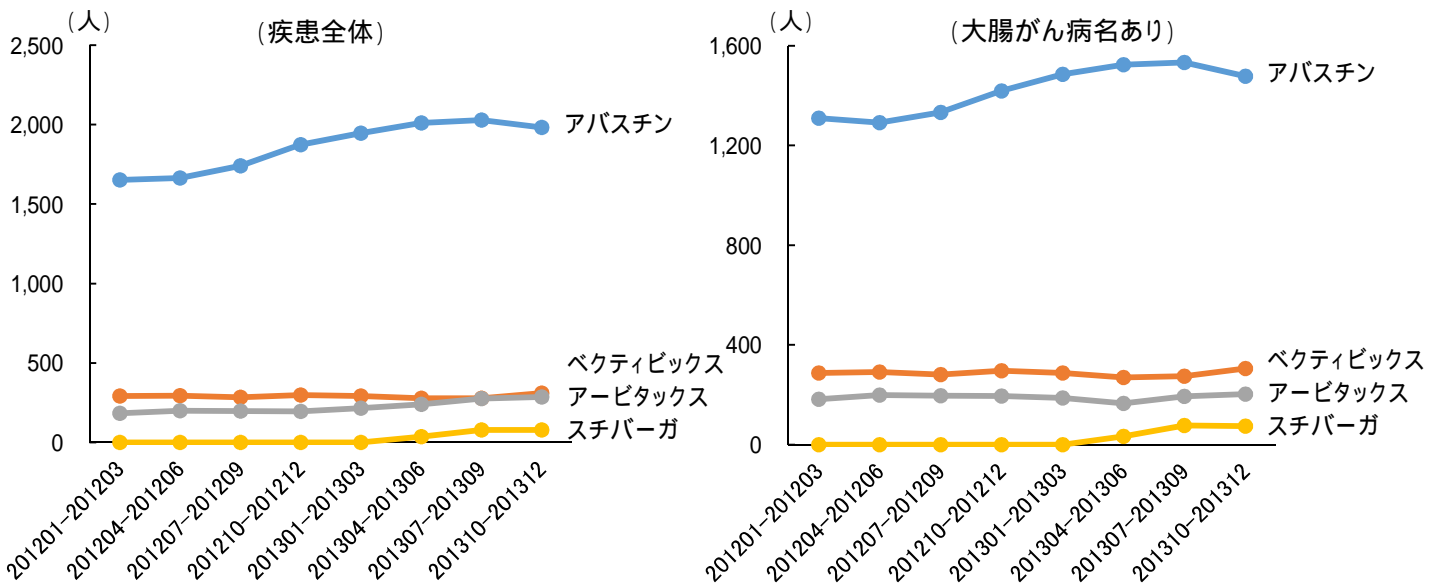


【処方患者数はアバステンの1人勝ち、ただし伸び率は頭打ちの傾向】

次に、アバステン・ベクティピックス・アービタックス・スチバーガの製品別処方患者数推移を「疾患全体」と「大腸がん病名あり」に分けて見てみます。

「疾患全体」と「大腸がん病名あり」共に、2007年6月販売開始となったアバステンの1人勝ち状態となっており、いずれの期間においても、4薬剤におけるその処方患者数シェアは7～8割で推移しています。アービタックス及びベクティピックスは共に翌2008年の販売開始であったものの、アバステンとの差は縮まることなく現在に至っています。ただし、特に2012年10月以降はアバステンの伸び率が頭打ちの傾向にあり、2013年10月～12月においては、調査期間中で初めて前3ヶ月よりも処方患者数が微減となりました。スチバーガは、昨年2013年の発売ということもあり、今後の動向に注目です。

【製品別 処方患者数推移】



(疾患全体)

	アバステン	ベクティピックス	アービタックス	スチバーガ
201201-201203	1,652	291	183	0
201204-201206	1,664	294	200	0
201207-201209	1,740	283	197	0
201210-201212	1,874	298	196	0
201301-201303	1,947	291	216	0
201304-201306	2,011	277	239	35
201307-201309	2,028	277	276	79
201310-201312	1,982	309	286	78

(大腸がん病名あり)

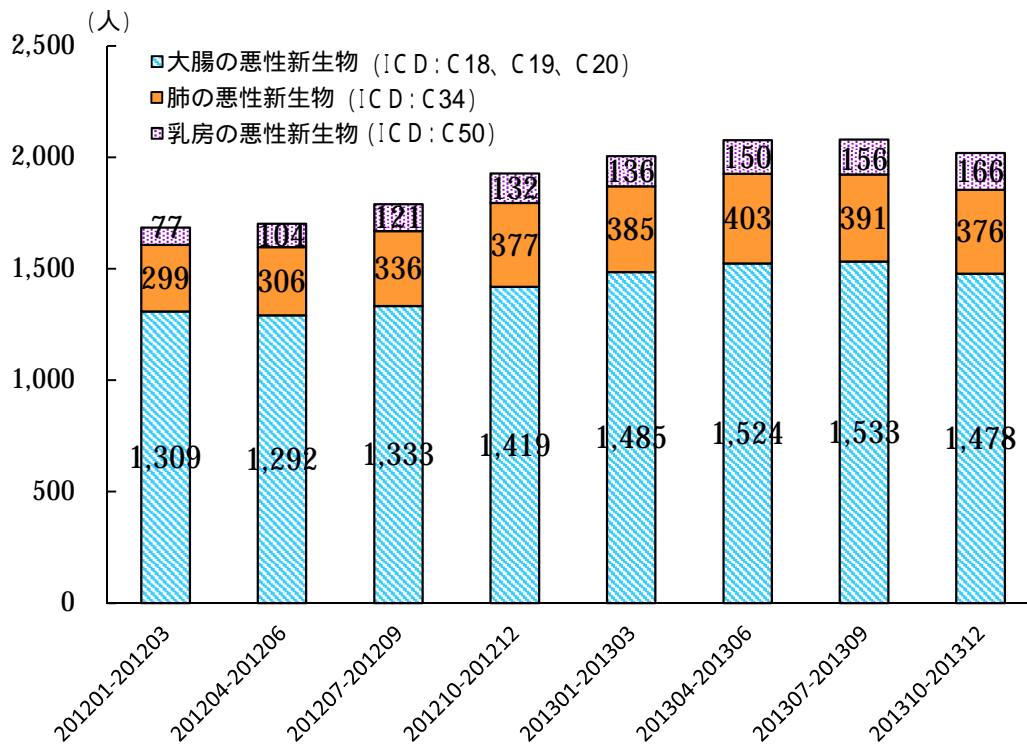
	アバステン	ベクティピックス	アービタックス	スチバーガ
201201-201203	1,309	288	182	0
201204-201206	1,292	291	199	0
201207-201209	1,333	281	196	0
201210-201212	1,419	296	195	0
201301-201303	1,485	287	187	0
201304-201306	1,524	270	166	33
201307-201309	1,533	275	194	77
201310-201312	1,478	306	203	75

**【アバステンにおける乳房の悪性新生物の処方患者数は約2年で2倍に】**

最後に、アバステンの主な適応症別の処方患者数推移を見えます。

最も処方患者数が多い適応症は大腸の悪性新生物(ICD:C18、C19、C20)で、次いで肺の悪性新生物(ICD:C34)、乳房の悪性新生物(ICD:C50)の順となっています。大腸の悪性新生物と肺の悪性新生物の処方患者数は全体的に微増の傾向ですが、乳房の悪性新生物は2012年1月～3月と2013年10月～12月を比較すると約2倍の処方患者数となっています。

【アバステンにおける主な適応症別の処方患者数推移】



【調査概要】

調査手法：当社が保有する「診療データベース」より抽出分析

調査対象：二次利用の許諾を得た136の急性期病院(がん拠点病院44病院を含む)のうち、調査対象期間のデータが全て揃っている86病院、約341万人

調査期間：2012年1月～2013年12月

当社は、株式会社日本経済新聞デジタルメディア(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:木本芳樹)が手がける日本最大級の会員制ビジネス情報検索サービス「日経テレコン」に、病院における薬剤処方実態や各疾患領域の患者規模状況などを明らかにする「MDV診療データ」を配信しています。